

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1470801208
法人名	社会福祉法人横浜長寿会
事業所名	グループホーム ぬくもりの家・金沢文庫
訪問調査日	平成 19年 5月 15日
評価確定日	平成 19年 7月 3日
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年7月5日

【評価実施概要】

事業所番号	1470801208
法人名	社会福祉法人 横浜長寿会
事業所名	グループホームぬくもりの家・金沢文庫
所在地 (電話番号)	神奈川県横浜市金沢区寺前2-23-35 (電話)045-790-3910
評価機関名	社団法人かながわ福祉サービス振興会
所在地	横浜市中区本町2-10 横浜大栄ビル8階
訪問調査日	平成19年5月15日

【情報提供票より】(19年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 2人、非常勤6人、常勤換算4.6人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 350,000円)	有りの場合 償却の有無	(有) 無
食材料費	朝食 円	昼食 円	
	夕食 円	おやつ 円	
	または1日当たり	1,400円	

(4) 利用者の概要(4月1日現在)

利用者人数		名	男性		1 名	女性		8 名
要介護1		5	名	要介護2		1	名	
要介護3		2	名	要介護4		1	名	
要介護5		0	名	要支援2		0	名	
年齢	平均	80 歳		最低	71 歳		最高	84 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	金沢文庫病院 / 神林クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは落ち着いた住宅街の中にある。近くには有名なお寺や海があるため、毎日の散歩コースにとっても恵まれている。建物は築1年と新しく、綺麗な2階建てである。その1階部分を認知症高齢者グループホームとして使用して、2階部分は別法人の障害者グループホームになっている。

利用者と職員の信頼関係づくりに力を注ぎ、一人ひとりの思い、意思決定、出来ることを大切にしている。利用者が安心して生活が送れるように「ゆっくり、ゆったり、私らしく」の理念を意識してケアを行っている。

また、地域との交流も大切にしており、地域行事には積極的に参加している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 今回が初めての評価である。今回の評価で見出された課題については、順次、積極的に改善に向けて取り組む予定である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回が初めての自己評価である。管理者は職員に評価の意義や目的を伝え、職員全員で自己評価を行い課題を明らかにしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 横浜市の指示が出るまで対応待ちとなっているため、まだ開催されていない。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族の来訪時に日頃の様子や金銭の報告をしている。それ以外にも毎月1回「お便り」を出して近況を伝えている。また、体調変化があった場合には、随時連絡をとっている。 来訪時に気軽に声をかけたり、便りで促がしたりして要望や意見を出してもらっている。出された要望や意見は、会議で話し合い改善し、介護に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) まず第一に、地域の方にグループホームを理解してもらうための説明会を行った。さらに自治会に加入して、運動会やお祭り、高齢者のつどいなどの行事に積極的に参加して理解を深める努力をしている。また、散歩中に顔見知りになった方のお庭を拝見したり、花をもらったり等の交流が芽生え、その成果が少しずつ現れている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で、地域の中でどのようなグループホームにしていきたいかを考え、利用者に安心して暮らしてもらうために、「ゆっくり、ゆったり、私らしく」の事業所独自の理念をつくりあげている。 パンフレットに理念をはっきりと明記して、家族にも説明をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員全員で理念を作り上げたことで意識の共有化ができています。日々の業務でも、あせらず着実に利用者のペースを尊重することを心がけ、理念を実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方にグループホームを理解してもらうために、自治会館で「福祉サービス、認知症やグループホーム」についての説明会を行った。また、自治会にも加入しており、運動会やお祭り、高齢者のつどいなどの行事を通じて交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の実施は今回が初めてである。管理者は職員に評価の意義や目的を伝え、職員全員で自己評価を行っている。今回の評価で見出された課題については、順次、積極的に改善に向けて取り組む予定である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議開催については横浜市の指示が出るまで対応待ちになっているため、まだ開催されていない。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	折に触れて区役所のケースワーカーと連絡をとりさまざまな相談をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には声をかけて日頃の様子を伝えたり、「お手紙」を出して近況報告をしている。体調変化があった場合には、電話で随時連絡をとっている。 金銭管理については、個別の出納帳に記録して、月1回の請求をしている。お金の使途については、家族の来訪時に確認および報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に気軽に声をかけ要望や意見を出してもらっている。出された要望や意見は申し送り時や会議で話し合い、改善したり介護に反映させたりしている。 苦情の窓口は重要事項説明書や玄関に掲示して利用者や家族に分かるようにしてある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、家族との信頼関係を素早く築くためには、馴染みの職員の対応が重要であると考えている。そのため、職員が働きやすい環境づくりを心がけており、現状では職員交代はなく、馴染みの職員による支援が継続できている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は段階的に法人研修を受講し、実習を受けた管理者が職員に教える仕組みになっている。職員の研修は、入職時の研修や実習だけであり、今後の職員のレベルアップのためにも積極的に多くの研修に参加させる必要がある。	○	職員全体のケアサービスの向上が必要であり、研修計画を立てて職員の段階に応じた受講を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入しているが、同業者同士の活発な交流は行われていない。	○	同業者との活発な交流を行い、事業所以外の意見や経験をケアに活かすことを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	管理者は、入居前には必ず利用者の自宅を訪問して、本人や家族と話し合いをし、それぞれの要望や状況を確認している。その後、グループホームに安心できるまで何度でも来てもらい、納得の上で入居してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は相手の立場になって考えることを心がけており、日々の生活のなかで利用者の不安や苦しみを理解し、喜びや楽しみを共有したり、生活の知恵を教えてもらい、共に支えあう関係づくりをしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始時に生活歴、得意なこと、希望や意向を把握し、それをアセスメント表に記録してケアに活用している。意思疎通が困難な場合には、その人の表情を読み取ったり、家族から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の生活の中で一人ひとりのリズムを把握し、出来ること・気づいたこと、家族の要望を個人記録に記載している。それをもとに職員全員で意見交換を行い介護計画を作成し、家族の了解の上で実践に活かしている。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状況変化に対しては、介護の見直しが必要かどうかを職員間で話し合いをしており、対応の様子は随時個別記録に記載しているが、介護計画の見直し期間に応じた介護計画の見直しがされていない。	○	利用者の現状に即した日々のケアを全員で行うために、介護計画は3ヶ月ごとに見直して記録を残すことが望ましい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況や、利用者の要望に応じて、通院、理美容院、デイサービス利用時に送迎等の支援を行っている。また、本人の行きたい場所等、個別の外出支援も可能な限り行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続して利用しており、それ以外にも協力医療機関の確保ができています。緊急時には、それぞれのかかりつけ医と連携をとり、速やかな対応をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、現在のところ話し合いがもたれていない。	○	重度化に伴い、事業所が対応できることを明確にしたり、終末期に対する対応指針を定めて家族、医師を交えた話し合いを行うことを期待する。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を守るとは採用時研修で周知しており、入室時にはノックをして声をかける等、きちんと個人のプライバシーを尊重している。 個人情報に関する方針については、利用者に書面で示し、同意印をもらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態をきめ細かく把握し、その日一日を気持ち良く過ごすための配慮をしている。 利用者は散歩や編み物を楽しんだり、新聞を読んだりしており、自由な過ごし方をしていた。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を取り入れながら作っている。調理、片付けは得意な利用者に手伝ってもらい、職員と共に行っている。 職員は利用者と一緒に食卓について、楽しく会話をしたり、さりげないサポートをしながら同じ食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日沸かしており、午後の入浴時間枠のなかで、一人ひとりの希望する時間に入浴してもらっている。 入浴の様子は業務日誌やバイタルチェック表で把握し、その日の状態に合わせて、シャワー浴や足浴などの対応も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中から洗濯物たたみや料理の手伝いなど個性に応じた役割を見出し、仕事を任せることで自信や張り合いが持てるようにしている。中にはオルガンを弾いたり、園芸を楽しんでいる人もいる。また、自治会の行事にも積極的に参加して、それぞれの楽しい時間を持てるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩が毎日の日課になっており、希望のコースに出かけることで、季節感を味わったり、地域の方との触れ合いを楽しんでいる。それ以外にも近隣への買い物やドライブの機会を設けてできるだけ戸外に出かけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに常時開放している。玄関を開けるとチャイムが鳴り、出入りが分かるようになっている。 職員は利用者の表情や言葉に気をつけて、出かけそうな気配を感じたら、話をじっくりと聞いたり、一緒に近隣を一周してくるなどの対応をして気持ちが落ち着くようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時の対応のマニュアルがあり、見やすい場所に掲示されている。 消防署が一度訪れており、職員は消火器の場所の把握や避難経路の確認をしているが、まだ避難訓練は行っていない。	○	消防署や地域に協力してもらい、定期的な訓練を行なうことが望まれる。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取状況を毎日チェックして記録を残し、一人ひとりの様子を把握している。摂取量が少ない時や苦手の食品がある場合には、好みの代替品で補っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節の花を飾っている。また、長いすが置かれ外出前後に休憩ができるようになっている。居間には段差のない畳スペースやソファがあり、家庭的でくつろげる雰囲気になっている。 室内は掃除が行き届き不快な臭いはなく、採光や室温も程よく調節されており、利用者が落ち着いて過ごせる状態になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッド、タンス、椅子、時計等の使い慣れた物や、オルガン、本、テレビ等の趣味の品々が持ち込まれている。また、本人にとって大切な写真、人形等も飾られており、利用者が安らげる場所となっている。		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点]（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ぬくもりの家・金沢文庫
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	横浜市金沢区寺前2丁目23-35
記入者名 （管理者）	石沢 雅子
記入日	平成 19 年 4 月 30 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でどのようなグループホームにしていきたいかを職員皆で考え、意見を出し合い、自分らしく安心して生活を送っていただけるような理念を考えた。		
2 ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	立ち上げ時に職員皆で意見を出し合い、共有し合い、日々の関わりの中で理念の実践に取り組んでいる。		
3 ○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域の中にできたグループホームがどのような場であるかを地域の方々に話をさせていただく機会を設けていただいた。		
2. 地域との支えあい			
4 ○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常の散歩や買い物・外出等に出た時に気軽に挨拶や声をかけさせてもらったり、声をかけてもらっている。	○	近隣の小学校や保育園等、子供たちとの交流をする機会をもっていきたい。
5 ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の高齢者の集いに参加させていただいたり、運動会やお祭り等の地域の行事にも積極的に参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホームや他の福祉サービス・認知症についての話をさせていただく場を設けていただいた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義・目的を伝え、全員で自己評価に取り組むようにしている。	○	今回の自己評価・外部評価を機に改善に向けて具体的な検討や実践につなげる努力をしていきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	まだ取り組みはされていない	○	運営推進会議を立ち上げ、サービスの質の向上に努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の担当ケースワーカーとの情報の共有をはかり、課題・解決をはかっている。	○	区や地域包括支援センターとも連携が取れるような活動をしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者が窓口として対応する為、地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度についての理解や、支援の体制が万全ではない。	○	研修への参加を通し、職員の理解を深めるようにし、支援へと結び付けていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待はないが、関連法について学ぶ機会が設けられておらず、理解浸透や遵守に向けた取り組みは積極的にはできていない	○	研修への参加を通し、職員の理解を深めるようにし、支援へと結び付けていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をとって丁寧に説明を行っている。不明な点や疑問点等にも丁寧に説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の利用者の言葉や態度からその思いを察する努力、意見を言いやすい関係作りに努め、申し送りや会議等で話し合い、運営や日々のケアに活かしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問時には随時ご様子を伝え、月1度お手紙で現在の報告をしている。また、体調変化時は随時行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	手紙や訪問時には、随時問いかけを行い、なんでも言ってもらえるような関係作りを心がけている。意見・要望等は申し送りや会議等で話し合い、反映できるようにしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体で役職者会議を設定し、各事業所の事業計画・事業運営状況の報告をし合い、共有化をはかっている。また、会議や仕事の合間に随時意見を聴くように心がけている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は通常のシフトには入っておらず、夜間や利用者の状態変化に応じた柔軟な動きが取れるようにしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人の就業規則上は、常勤職員の人事異動が定められているが、実情は新規事業の立ち上げ当時に若干の異動があるのみである。また、非常勤職員については現地採用であり、本人の希望がなければ人事異動はない。また、働きやすい環境作りに努め、なじみの職員からの支援が継続して受けることができるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では基本的に階層別の研修を主としており、役職者については法人で研修を実施している。各事業所についてはそれぞれの事業所内で研修を実施。外部研修については、研修情報の案内により、随時研修に参加させている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人としては、地域の同業者との関係作りは非常に重要と位置づけてお会い、各事業所で、それぞれの地域の研修会や会議等に参加させている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人全体で役職者会議、研修を実施し、内部での情報交換をはかっている。各事業所においては外部の研修・会議等に参加し、情報交換をはかり、これにより、問題・課題を内に溜め込めずに解決する試みを行っている。また、無理な勤務・シフトは作らず、十分な休養をとってもらい、ストレスをためないようにしている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	法人の役職者会議等で各事業所の事業実績や運営状況を報告し合い、評価・共有化をはかっている。また、勤務状況については法人事務局で管理し、状況把握に努めている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者が事前にご本人の自宅に伺い、ご本人と会い、生活のご様子や思いを受け止め、他の職員にもご本人の状態・思いを受け入れられるような関係作りに努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族の話をゆっくりと聴き、その思い等受け止め、自分たちがどう対応できるのか話し合い、安心してサービスを利用してもらえるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の思い・状況等確認し、受け止め、ご本人・ご家族が安心を得られるよう必要なサービスにつなげていける対応をとっている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず、ご本人・ご家族に見学に来てもらい(必要ならば何度でも)、雰囲気等つかんでいただき、安心感を持ってサービスを利用していただけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に相手の立場に立って考え、不安・喜び・楽しみを共感し、理解しながら共に支えあう関係作りに努めている。また、利用者から教えてもらうことも多く、教えてもらったことを大切にしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や思いを伝えと共に、家族の思いも受け止め、ご本人もご家族も安心してサービスを利用していただけるよう協力関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常にご本人・ご家族の思いを受け止め、日ごろのご様子は、こまめに報告・相談をしながらご本人・ご家族が気持ちよくいられる様に心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の友人・知人と気軽に気持ちよく行き来できるように、職員も声かけや働きかけをしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性を注意深く見守り、職員が調整役となり、利用者同士が支えあえるよう、関係が円滑になるよう働きかけをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの終了した方には、その後の様子を聞いたり、介護方法の相談にのったりとし、必要時にフォローできるようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	発する言葉や態度・表情からその思いを推し量り、耳を傾け、本人の暮らしへの希望にそえるようにしている。また、ご家族からの情報も大切にしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人・ご家族から聞き取るようにしているとともに、日々の会話やご家族・知人とのコミュニケーションを通して把握していくように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員同士で情報を共有しながらお一人お一人の生活のリズムを把握し、出きることを少しずつ見つけながら、その人の全体像の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で、思いや意見を汲み取り、反映させるようにしている。	○	常に情報収集を怠らず、画一的な介護計画にならないようにしていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況変化に伴いその時々で職員間で話し合い、対応しているが、介護計画に反映がされていない。	○	柔軟に介護計画の作成を行い、実行していける動きを身につける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしでの発見や言動・体調を個別に記録し、職員は常に目を通すようにし、情報を共有している。	○	記録の仕方を工夫し、より個別の情報が分かりやすく、ケアに活かせるよう見直しを行っていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人・ご家族の状況に応じて、通院や外出等の支援を柔軟に対応し、個々の満足度を高めるようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	できていない	○	利用者が安心して生活をしていけるよう、周辺施設への働きかけやボランティアへの協力を呼びかけていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要に応じて、介護保険外の生活支援に結びつくサービスを受けられるように支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在はできていない。	○	周辺情報や、支援に関する情報交換や協力関係を築けるようにしていきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医での医療を継続してしてもらっている。基本的にはご家族の同行受診をお願いしているが、できない時は職員が同行している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に関する治療・対処方法等、認知症医療に対する利用者個々の対応はできていない。	○	認知症の医療に熱心で、ご家族・職員の話をよく聴き、日常の利用者の姿を通して適切な指示や助言をしてくれるような医師を地域の中で探し、個別支援をしていきたい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同法人の看護師に健康状態や医療面での相談・援助を行っている。	○	訪問看護ステーションとも協力できるような体制を作り、日ごろの健康管理や医療的な支援を行えるようにしていきたい。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	まだ、入院された方がいないが、入院時には、ご本人の支援方法に関する情報を医療機関へ提供していき、入院後は回復状況等確認しながら速やかな退院支援へと結び付けていきたいと考える。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状態の変化があるごとにご家族の気持ちやご本人の思いに注意を払い、本人にとってどうあったら一番良いのかを話し合いながら方針を決めていく。	○	重度化や終末期のあり方について職員間で話し合い、自分たちの出来ること、できないことを見極めながら方針を統一し、共有していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者により良く暮らしていただく為に、常に利用者の気持ちを大切にしながら、かかりつけ医の意見を聞きながら、ご家族と話し合いを重ねながら、準備をしていきたい。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい住まいでもこれまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境や支援の内容、注意が必要な点等情報を提供していく。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	他の利用者や外来者にプライバシーを損ねない言葉かけや対応の徹底を会議や日常の場で確認している。	
51	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	何事も押し付けることはせず、その方の状態に合わせて、自ら決定してもらうよう支援している。	
52	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、お一人お一人の状態に合わせて、気持ちを尊重しながら、散歩・買い物・余暇活動等柔軟に対応している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	基本的に着替えはご本人が行っており、職員は見守りや支援が必要な時にお手伝いさせていただいている。理美容もご本人の望む時に行き、ご本人の好みに合わせて行っている。また、希望者は職員がご本人の好みに合わせカットしている。	
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・セッティング・片付け等、それぞれの得意分野で一緒に行ってもらっている。職員も同じテーブルで一緒に食べながら雰囲気作りをしている。	
55	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	近所のコンビニ等に等で、自分の好きな飲み物やお菓子を購入し、召し上がっている方もいる。お茶やコーヒー等ご本人の好みに合わせてお出ししている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意のない方へは、排泄表を使用し時間を見計らってトイレへお連れし、トイレでの排泄を支援している。また、ウォシュレットを使用し、気持ちよく排泄ができるよう支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日希望を確認し、その日の午後の入りたい時間帯に入浴していただいている。入りたがらない方には声かけを工夫し、気持ちよく入浴していただけるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	お一人お一人の状態に合わせ、不安を取り除き安心して休憩したり、よく眠れるように声かけを行い、支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの個性を活かし、お願いできそうな仕事を頼み、自分の役割として自信と張り合いを持っていただけるよう、感謝の言葉を伝えている。	○	習慣・希望・有する力をふまえて、何がその人の役割・楽しみになり得るのかを把握し、作り出す職員の気づきの力をつけていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人一人の持っている力に応じてご自分で小遣いを持ってもらっている。買い物時は、職員が付き添い好みのものをご自分で選び、支払いは能力に応じ見守り・支援し、満足感を得てもらうようにしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人の気分や状態・希望に応じて悪天候でない限り毎日散歩や買い物、ドライブに出、季節の移り変わりや地域の方とのふれあいを感じてもらえるように支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族・知人と共に外食・外出をされている。季節ごとのドライブや地域の特別な催し等、日常とは違った刺激が得られるよう支援している。	○	個人の思いを聴き、ご家族とも協同しながら、個人の思いをかなえるような外出支援をしていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人・ご家族の希望により電話は自由にかけたり取り次いだりしている。電話は子機を使用し自室でゆっくり話をしていたり、気兼ねなく会話できるように電話中はその場を離れているようにしている。また、携帯電話を所持されている方もいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や知人がいつでも来訪しやすいように、職員は来訪しやすい雰囲気作りを行っている。また、ゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束によって利用者が受ける身体的・精神的弊害について理解し、拘束のないケアを行っている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中外出したような様子を察した時には、さりげなく声をかけて同行できるようにし、自由な暮らしを支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜共に職員は常に見守りやすい場所にて、様子や物音を敏感に察知できるよう、プライバシーを配慮しながら安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に合わせて必要な物品を持っていたり。また、ご本人が所持していることを理解している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	一人一人の状態を把握し、物の配置や食事の摂取方法等工夫に取り組んでいる。また、事故やヒヤリハットのあったときには、速やかに報告書を作成し、今後の予防について検討し、防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	持病を把握し、初期対応としての薬の使い方等確認している。	○	応急手当や初期対応の方法等、知識・技術を身につけることができるよう研修参加や訓練を行い、全職員が実際の場面で活かせる技術を身につけていく。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	非難等については、立ち上げ時に職員間で経路等確認しているが、訓練は定期的にできていない。	○	訓練を定期的に行い、災害時に非難できる方法を身につけていくと共に、地域の防災訓練等にも参加していく。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	事故やヒヤリハットについてご家族に報告、説明を行い、利用者の力の発揮を抑えることのない、自由な暮らしを支える為の支援方法を説明し、理解が得られるように努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックと普段の状態を把握しながら、常に顔色や様子に注意し、体調の変化を見逃さないように注意している。変化時にはバイタルチェックを行い、報告・共有し、状況に応じ医療機関への受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	出された薬については薬局の説明書に目を通し、理解していくと共に、服薬時には本人に手渡し、きちんと服用できているか確認をしている。また、日常の状態を把握し、状態変化を見逃さないようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人一人の排便状況を把握し、毎日の散歩や家事活動などで体を動かしてもらったり、入浴、ヨーグルトや牛乳・繊維質のある食材をとってもらう等工夫し、自然排便を促している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後声かけを行い、一人一人の能力に応じた見守り・介助を行っている。また、定期的に入れ歯の消毒を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	大まかに食事や水分摂取量を把握し、職員で情報を共有している。嗜好を把握し、摂取量が少ない方には、好みのもので摂取していただくよう配慮している。	○	献立の栄養バランス(カロリー・塩分量等)を同法人の管理栄養士に定期的にアドバイスをもらう
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	日ごろより利用者・職員共に手洗いうがいの励行を徹底し行っている。また、ペーパータオルの使用やヒスコールによる消毒等で予防を徹底している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾等は毎日漂白・消毒し、定期的に冷蔵庫の掃除・点検を行い清潔を心がけている。また、一日おきに食材の買い物を行い、材料によっては調理前に買いに行く等、新鮮で安全な食材を使用するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にプランターを置き、明るい雰囲気になるようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には椅子を置き、外出前や外出後一休みしながらおしゃべりができるようにしたり、畳のスペースにソファを置き、思い思いにくつろげるような空間をつくっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関には椅子を置き、外出前や外出後一休みしながらおしゃべりができるようにしたり、畳のスペースにソファを置き、思い思いにくつろげるような空間をつくっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れたものをそれぞれの生活スタイルに合わせて持ってこられ、居心地良く過ごせるようにしている。	○	個々の生活スタイルをつかみ、さらに居心地の良い居室にしてい
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	個々の状況にあわせて温度調節を行い、日に何度か換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置や干し物をする時などの高さを工夫し、常にチェックし、安全確保と自立への配慮をしている。	○	廊下に手すりの設置が現在ないので、今後利用者の状況に合わせて考えていきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の状況に合わせ、何が原因かを分析し、ご本人の好きなものを目印にする等混乱のないように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	窓の外にプランターを置き、水遣りや成長を楽しんで活動できるようにしている。	○	建物の周辺スペースを活用し、もっと緑や菜園を楽しめる環境を作っていきたい。

サービスの実績に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
		○	利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
		○	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
		○	職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

海の公園や称名寺等、散歩のコースに恵まれており、「今日はこっち」「明日はあっち」と四季折々の風景を体力維持を兼ねながら楽しめる環境にあり、『ゆっくり・ゆったり・私らしく』の基本理念をすべての行動にあてはめながら、利用者一人一人の思いや意思決定、出来ることを大切に、日々安心して生活を送っていただけるよう実践している。また、地域の行事もいろいろとあり、気軽に参加できるとともに、積極的に参加しながら地域との交流を深めている。